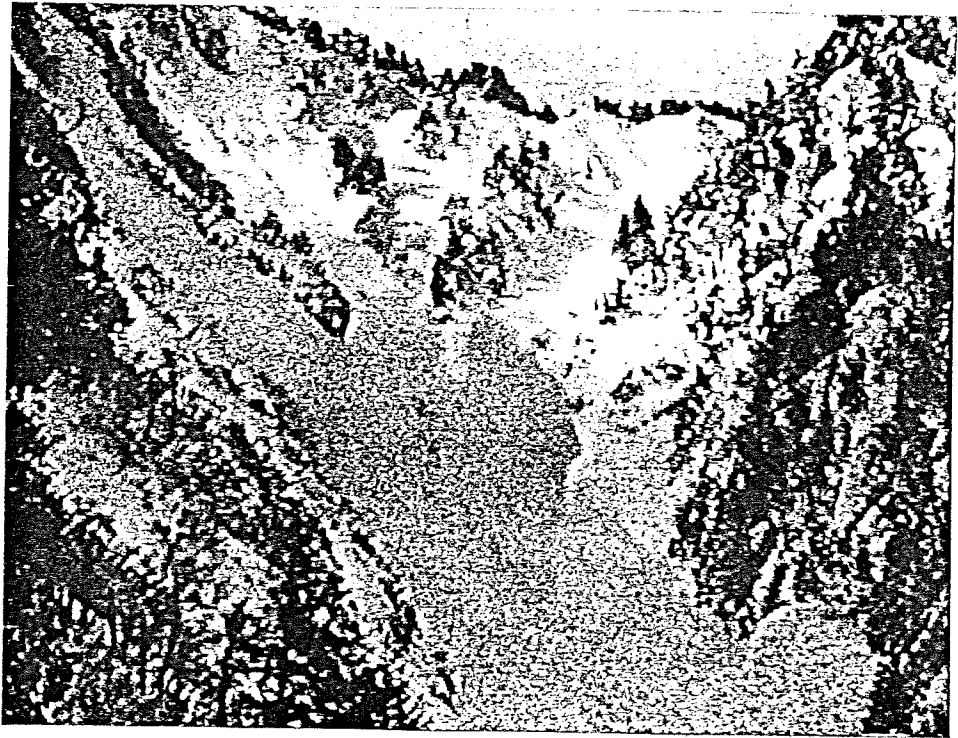


雪崩分科会レター

No. 2 (1988年6月)



日本雪氷学会雪崩分科会

川田邦夫気付

1. 昭和62年度雪崩分科会活動

1) 総会

昭和62年10月6日(火)午後3:30~6:00、全国大会(釧路)時に分科会総会が行われた。出席者は約50名であった。以下にその内容を記する。

事業報告:(イ)分科会のニュースレターの発行

(ロ)なだれ用語集の検討

会計:

昭和62年度会計決算報告

(昭和62年09月30日現在)

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
会費(個人会員) 1,000×77	77,000	郵便振替口座開設	50
会費(団体会員) 2,000×13	26,000	印鑑作成	7,500
預金利息	28	文具	560
合計	103,028	切手	3,660
		封筒	900
		葉書	1,000
		往復葉書	7,200
		郵送料	19,260
		書留郵送料	870
		分科会レターコピー	15,000
		会費送料	2,440
		合計	58,440

収入-支出 = 44,588円

2) 講演会

事業、会計報告に引き続き今年度は「表層雪崩」をテーマに話題提供があり、活発な討論がなされた。

参加者は約80名にたった。話題内容と提供者は以下の通りである。

(1) 乾雪表層雪崩の発生: 遠藤八十一(林業試験場十日町試験地)

56豪雪以来、新潟県下では大規模な乾雪表層雪崩が頻発している。56以降のこれらの雪崩がどのような気象・積雪条件下で発生したかを、話題提供した。発生条件

として次のような特徴があった。

1. 低温下で、多量の雪が降り続けている。
2. 強い風を伴う場合が多い。
3. むれざらめ雪が滑り面となったと考えられる場合が多い。

新潟県下では、1日50cm以上の降雪強度を乾雪表層雪崩の発生を目安としている所が多いが(新潟地方气象台、国鉄など)、上記雪崩の発生時の降雪条件は、ほぼこの基準を満たしていると考えられた。

多量の雪が降り続く場合の雪崩の発生を、雪の粘性係数とせん断強度より予測する方法を提示した。

(2) 表層雪崩の衝撃力：川田邦夫(富山大理学部)

最近注目されている大規模の乾雪表層雪崩について、その衝撃力はどのようなかをこれまでのデータをもとにまとめてみた。

ここでは黒部峡谷で行われてきた自然発生の大規模乾雪表層雪崩の観測結果を中心に、衝撃力の大きさとその波形、速度、雪崩の構造等について述べた。

波形には一般に二つのタイプがあり、一つは短い時間間隔の衝撃力のピークが多数独立して現われる場合であり、他の一つは少し時間巾の広いピークが連続し、衝撃力がゼロまでもどらないで残っている波形である。これらは流れの中にある雪ブロックの粗密さと粉体流となった雪によって作られると考えられる。衝撃力は特に硬くない雪のブロックでは数百 kN/m^2 程度の大きさであろう。流れの内部での速度は60~70 m/s 以上になることもあるようである。

(3) 表層雪崩の運動：前野紀一(北海道大学低温科学研究所)

従来の雪崩の運動方程式の解説とともに、柵口雪崩の数値シュミレーションの結果を紹介した内容であった。

(4) 新潟県における表層雪崩の事例：町田誠(町田建設株式会社)

過去数年間に新潟県下で発生した数多くの表層雪崩の事例を紹介し、その被害、対策の諸問題を提起した。

(*(3)、(4)の内容は事務局で要約)

2. 日本雪氷学会創立50周年記念事業における「雪氷辞典」の出版について

皆様御存知の通り、創立50周年記念事業の一つとして雪氷辞典を出版することが理事会で決定されました。現在、この辞典の体裁は、雪氷の基礎分野から応用分野にいたるまで広い範囲を取り上げ、語数は約1200語、各語に英訳と原則として200字以内の簡単な説明をつけます。数語に一枚程度の小図画や写真なども配した四六判約200~250頁のものを予定されています。

このことについて、作成作業委員会(委員長：中島暢太郎理事)から、分科会長あてに、分科会から一人の編集委員の推薦の依頼がありました。編集委員には、当

分科会幹事の成田英器（北大低温研）が当たることになりました。

尚、雪氷辞典は昭和64年6月に古今書院から発行予定です。雪崩分野からの項目の選定、原稿の執筆など、これから本格的に行われますので、皆様方の御協力をお願い致します。

* * * *

3. 「新潟県雪崩シンポジウム開かる」

昭和63年1月26日、新潟市の新潟ワシントンホテルで雪崩シンポジウムが開かれた。県砂防課が中心になって実行委員会をつくり開いたもので、約250人の参加者があった。以下に講演と研究成果の発表題目を上げる。

講演

1. 世界のなだれ研究の動向（中村勉：国立防災センター）
2. 欧米のなだれ対策（新田隆三：林野庁）
3. 集落雪崩対策にかかわる諸問題（中俣三郎：元新潟大）

今日の雪崩研究の成果（新潟県を中心として）

1. 柵口雪崩の数値シミュレーション（福嶋佑介：長岡技術科学大）
2. 防雪工の設計計画—集落対象—（阿部勉：関越ロードメンテナンス（株））
3. 離散ボールモデルによる雪崩運動（中西宏：（株）神戸製鋼所）
4. ドカ雪時に起こる乾雪表層雪崩の発生予防（遠藤八十一：農林水産省林業—新雪のせん断破壊による場合— 試験場十日町試験地）
5. 表層雪崩発生時の積雪と層構造について（山田穰：国立防災科学技術センター）
6. 雪崩対策調査雪崩対策調査における空中写真の利用と限界（坊城智広：国際航業（株））
7. 雪崩調査の実際と問題点（小川紀一郎：アジア測量（株））
8. 柵口雪崩災害調査報告（上石勲：新井測量（株））
9. 雪崩減勢工に関する基礎的実験（下村忠一：建設省土木研究所）
10. 泥岩地帯の雪崩防止施設基礎地盤に関する検討（青山清道：新潟大学積雪地域災害研究センター）

4. 出版物紹介

IAHSから以下の雪崩に関する出版物が出されました。

Avalanche Formation, Movement and Effects. Proceedings of the Davos Symposium, September 1986, p686.

内容：話題別論文 A) 一般的な雪の特性 B) 雪の構造的、科学的特性 C) 雪のグライド D) 雪の電磁気特性 E) 季節的な雪の物性と安定性 F) 雪の構

造と変態 G) 季節的な雪における融雪水の浸透 H) 風による雪の運搬
 I) 雪崩を誘発する気候型および天候型 J) 融雪雪崩 K) 雪の安定における植生の影響 L) 雪崩の運動 M) 雪崩の予報 N) 雪崩防護構造物の理論と設計 O) 基礎支持構造 P) 雪崩防護の技術的方法 Q) 雪崩の地理的分布 R) 雪崩の危険度解析

注文先

Bureau des Publications
 de l'UGGI
 140 Rue de Grenelle
 75700 Paris, France

5. 会員からの葉書メッセージ

ふりがな きとらみ
 氏名 : 北村昌美
 連絡先: [REDACTED]

山形大学農学部

 <自己紹介+メッセージ>

山形大学演習林 13 林班(東向斜面)に巨平雪崩が発生するに着手し、20年近く週1日程度程度、積雪期に河岸から写真を撮ってまいっています。撮影者は演習林職員です。ところが最近植生が回復して1年ほど雪崩が発生しなくなり、これから植生の回復と共に雪崩が衰退していく貴重な連続写真となりました。

ふりがな いとうまゆみ
 氏名 : 井上雅之
 連絡先: [REDACTED]

[REDACTED] (株)システム・クラブ

 <自己紹介+メッセージ>

雪氷や氷を専門としたゼネラリストを志向しています。従って、現在の業で雪氷に係わるものはさほど多くはありません。しかし、小生のルーツは雪氷にあるので、雪氷現象の全般に興味を持っています。なかでも、雪崩シミュレーション雪崩予知には興味を持っており、実際の業務にも携わっています。御指導のほどを。

ふりがな
氏名：後藤 良一
連絡先：〒 [redacted]

株式会社日本リフト・サービス

<自己紹介+メッセージ>

新潟県石打丸山スキー場でリフトを経営する会社にありがす。
スキー場の管理・安全対策に肉するいくつかの組織で、力を尽くしてあります。
雪崩対策はスキー場経営者にとって最大の課題でございます。今後研究会ありなどに専門家のご指導が頂ければ幸いです。

株式会社日本リフト・サービス 社長
全国スキー安全対策協議会 運営委員長
(財)日本スキー連盟 スキー場安全対策委員長

ふりがな くりやま ひろ
氏名：栗山 弘
連絡先：〒 [redacted]

<自己紹介+メッセージ>

自己紹介

職業 元国法人
北陸建設弘済会
(調査部長)

雪崩のかわり

- ① 雪崩防止構造物の件
- ② 自然斜面における雪崩の計画。

ふりがな かつぼ よしはる
氏名：松葉 美晴
連絡先：〒 [redacted]

日本サージン株式会社内

<自己紹介+メッセージ>

防災構造物の設計・施工と主に行っている会社に勤めています。本社は新潟で雪の本場です。雪害は、我々にとりば字宙ではなく、生命・財産に直接的に脅威をよぶ生活の一部であります。理論的解明はむしろであらうか、実務分野への具体的な行動が、今必要かと感じます。理論解明がすすむと、雪崩は待ってくれないです。……と思う、今日この頃です。

ふりがな やまが おお
氏名：山田 正雄
連絡先：〒 [redacted]

国土防災技術部

<自己紹介+メッセージ>

昨年土木研究所新潟試験所下村主任研究員のもとで雪崩文献整理と雪崩のシミュレーション携ってました。雪については初心者です。よろしくお願ひ致します。

ふりがな まつ かき ばる き
氏名 : 松岡 春樹
連絡先 : 〒 [redacted] [redacted]

ふりがな ねむら ぼんか
氏名 : 養村 運水
連絡先 : 〒 [redacted] [redacted]

東京製鋼株式会社

<自己紹介+メッセージ>

今は現役の職にありませぬ。
あのころの福島の観測データを、
何とかまとめられぬかと思っ
ていまが。

<自己紹介+メッセージ>

雪が珍しい九州から東京へ出てき
17年とソリテした。東京へ出てき
すぐに雪崩対策商品と関り、積雪
を巡回することにソリテした。
当社の場合、ワイヤロープメーカーと
いう事からワイヤロープを利用したものが
主流とソリテした。今後も100年+
歴史をもつワイヤロープの特性を活か
した構造物を研究したとソリテして
面白く企画がみれば連絡下さい。

ふりがな
氏名 : 広部 良輔
連絡先 : 〒 [redacted]

ふりがな
氏名 : [redacted] 養村 運水
連絡先 : 〒 [redacted]

山形大学理学部

<自己紹介+メッセージ>

国立防災センターに所属してあり
ます。長岡の雪害研で2年、雪国
を経験し、現在は筑波で地震
関係の仕事をしてあります。
本当の専門は界面現象の研究
で電気二重層や Van der Waals
Force などです。

<自己紹介+メッセージ>

林業をとりまく積雪と森林と生活と文化
に関する共同研究集団より構成され
昭52~昭61年間の10年間の文部省
特別施設。 (認定されず)
積雪断面観測と氷の圧縮観測を
(積雪の)
継続中。

ふりがな さかの りさお
 氏名 : 坂野 行雄
 連絡先 : [Redacted]
 (株)虎ノ門コンサルタンツ

＜自己紹介+メッセージ＞

経歴

- ① 昭和45年～47年
 { 科学技術庁, 国立防災
 科学技術センター, 新庄支所,
 支所長 (初代)
- ② 昭和25年～31年
 建設省 東北地方建設局 (技官)
- ③ 昭和48年～50年
 日本道路公団 (東北高速道路
 の維持管理)
- ④ 現在、民間会社 (役員)
 (道路設計等の業務)

ふりがな 塚原 初男
 氏名 : 塚原 初男
 連絡先 : [Redacted]

山形大学農学部 附属演習林

＜自己紹介+メッセージ＞

積雪不安定地や雪崩地の緑化
 (草本類及び木本類の導入)に
 ついて関心を寄せています。
 また、斜面雪圧の理論や
 実証にも興味を寄っています。
 (植)
 数年前より「森林雪氷学」同実践
 実習」を満喫しています。今後とも
 (冬季)
 どうぞよろしくお願いいたします。

ふりがな 大原 佳樹
 氏名 : 大原 佳樹
 連絡先 : 〒 [Redacted] 林試東北支隊
 又は、 [Redacted]

＜自己紹介+メッセージ＞

雪と林業との関わりを研究
 しています。主に森林の生育
 状態とか、生長を相手にし
 ておりますが、雪崩も森林
 との関わりが大きく、今後は
 雪崩に関する知識も
 重要と思いますので、沢山
 情報を期待しております。
 なお、私は、富山県八尾町
 出身で、大長谷など雪崩と全
 無縁ではないようです。

ふりがな 佐藤 篤司
 氏名 : 佐藤 篤司
 連絡先 : 〒 [Redacted]

国立防災科学技術センター 新庄雪氷

＜自己紹介+メッセージ＞

研究支所。
 学生のときから雪崩の基礎研究で
 と信じて、~~雪~~雪の力学的実験
 やつて来た。防災センターに入、
 いよいよ雪崩の研究をやれるかと
 思いきや、少々方向が違ってし
 高山山々を仰ぐか、となく、雪崩
 裾野をうらうらしていい。